

主 題：教会の建て方7

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章11－16節

ありとあらゆる生きものはその成長によってそれが健康、健全であることを証明して行きます。このことは決して新しい真実ではありません。私たちが毎日の生活で経験していること、よく見ることです。常識として捉えていることです。ところが、この余りにも明瞭で単純な真理が、こと、私たちの霊的生涯においては無視されることが多々あります。私たちはなぜか、霊的な成長がないことを当然のこと、普通のこと、それほど気にしなくても良いことだと考えています。けれども、それは神が私たちに教えることではありません。私たちはエペソ人への手紙4章から、教会に対する非常に大切な事柄を学んで来ました。4章11－16節は、聖書全体において「教会の教理」に関して最も重要なことを教えていると言っても過言ではない箇所だと私は思います。

☆教会の建て方 エペソ4：11－16

- I. キリストは賜物を受けた者たちを教会に与えた 11節
 - A. キリストは使徒たちを教会に与えた
 - B. キリストは預言者たちを教会に与えた
 - C. キリストは伝道者たちを教会に与えた
 - D. キリストは牧師・教師たちを教会に与えた
- II. キリストは一つの目的をもって彼らを教会に与えた 12節
 - A. 目的とは聖徒の完成である
 - B. 目的の達成には…
 - 1. 聖徒が奉仕の働きをすることが必要である
 - 2. 教会が成熟したものになることが必要である
- III. キリストは目指すべきところを明確にして彼らを教会に与えた 13節
 - A. 目指すのは信仰の一致である
 - B. 目指すのはキリストに関する知識の一致である
 - C. 目指すのは聖徒の完成である
- IV. キリストは予期すべき結果を明確にして彼らを教会に与えた
 - A. すべての信徒は成長を遂げる 14節
 - 1. 霊的未熟に身を置き続けることは罪である
 - 2. 霊的未熟の特徴は避けなければならない
 - 3. 霊的未熟は悪魔に攻撃の機会を与える
 - B. すべての信徒はキリストに向かって成長する 15節
 - 1. 成長は信徒が望むときにのみ起こる
 - 2. 成長は聖書の真理を通してのみ起こる
 - 3. 成長は愛の中でのみ起こる
 - 4. 成長は信徒をかしらにふさわしい者にする
 - C. すべての信徒は一つとなって成長する 16節

私たちはこれまでに、キリストがこの教会に対して賜物を持った者たちをお与えになったことを見ました。そのことが11節に記されていきました。この賜物を持った者は、みことば、神の真理を人々に教えるという役割を担っていました。そして、12節では、キリストがこれらの者たちを教会にお与えになった目的は、教会が完成するため、聖徒たち一人ひとりが完成することであると見ました。特に、このように使徒たちや預言者たち、伝道者たちや牧師・教師と呼ばれる者たちが、みことばをしっかりと解き明かすことを通して、聖徒たちが整えられ彼らが奉仕の働きを熱心に行ない、そのようにして教会、キリストのからだが建て上げられることを神は願っていたのです。

そして、13節で、キリストが教会が目指すべきところを明確に示して、そのように賜物を持った者たちを教会にお与えになったことを見ました。教会が継続的に、信仰の一致とキリストを知ること、神の御子に関する知識の一致において成長し、私たちがキリストに似た者となって行くことができるようにと、それが私たちが目指すべきところでした。そのことは、キリストが再び私たちのもとにやって来られるそのときまで、私たちがキリストに似た者としてキリストと顔と顔を合わせてお会いするそのときまで、ずっと継続して行く神の計画であることを私たちは見ました。それゆえに、私たちは時代が変わったから教会のあり方を変えなければいけないなどと言う必要はなかったのです。神はすべての時代において、教会はこのように建てられなければならない、教会の姿はこうでなければならないというこ

とを、私たちにもう示してくださっているのです。それゆえに、イエスにお会いするその日まで、私たちは成長し続けなければいけないのです。これこそが真に神が教会に持っている計画であり、教会を建てるに当たっての神の設計図だった訳です。

今朝私たちはその次の箇所、その次の部分に触れて行きます。教会がこのように継続的な成長を為して行くときに、そこに必然的に現われて来る結果がどのようなものかを、パウロは私たちに教えています。キリストは予期すべき結果を明確にしておられます。パウロは三つの結果を示しています。教会が神の設計図に沿って建てられて行くときに、必ず見られる三つの結果です。前回、14節を見た時に、私は皆さんにこのようなことを言いました。確かに、ここには命令形の動詞は一つも使われていないのですが、これは当然起こる結果として記されているゆえに、私たちはここに書かれていることを命令であると捉えることができるということです。つまり、もし私たちが神の計画に沿って教会を建てるなら、このようなことが起こって当然だと言われるのですから、私たちはそこを目指して、それに向かって生きて行かなければいけないのです。そのようになって行こうとしていなければいけないのです。前回、このことを見て来ました。もし、皆さんがこのような結果を自分の生涯に見出すことがなければ、それは二つのうちの一つが起こっています。一つは、皆さんが神の設計図に沿って建てられている教会に集っていないことです。集っているならこのような結果が当然見られるはずですが。私たちは「霊的成長」について見て行くのですが、この結果が皆さんの人生に起こっていないとするなら、それは皆さんが神の設計図に沿った教会に集っていないか、もしくは、そのような教会に集っていないが皆さんの罪のゆえに成長しようとしていないのか、そのどちらかです。このことを私たちはしっかりと胸に刻んでおかなければいけません。そのことをしっかりと覚えてこの箇所を見て行かなければいけないのです。

私たちは前回、最初の結果を見ました。14節に記されています。「すべての信徒は成長を遂げる」ということです。神の計画に沿って教会が建てられて行くとき、そこに集う信徒たちはみな成長して行かなければいけないのです。行くべきです。成長していなければおかしいと、そのことが14節に記されていました。14節から、パウロは私たちに、すべてのクリスチャンはみな霊的に未熟なものであるとして信仰生活を始めるということを教えていました。すべての信徒は救われたとき霊的な赤ちゃんとして生まれるのです。けれども、パウロが言うことは「そのような状態に留まり続けてはいけない、それはおかしい」ということです。別の言い方をすると、霊的に未熟な状態であり続けることはクリスチャンにとって罪深い状態にあるということなのです。なぜなら、神が望んでいることと違うからです。霊的に成長して行かなければおかしいのです。パウロはこの霊的に未熟な状態が本当に危険なものであることを私たちに教えようとして、この状態を二つの事柄を通して私たちに教えていました。

霊的に未熟な者は、非常に不安定でだまされやすい、丁度、大海原に小舟が浮かんでいるようなものだ、波にもまれてあっちに流されこっちに流されるという、非常に不安定な状態で居続けると言います。自分の生涯にいろいろな問題が起こって来ると、そこにどっしりと立つことができず、いつもゆらゆらと揺らされて、どうして良いのか分からないような状態の中で生き続けなければいけない。「それは大変、そんな状態の中で居続けることはいけない。」とパウロは言うのです。また、霊的に未熟な者は、あらゆる教えの風に吹き回されて、だまされやすいのです。風見鶏のような、風向計のようなものです。ある方向から風が吹いて来るとそれに沿って針が回ります。別の方向から風が来るとその方向に向かって針が回って行きます。そのようにあらゆることに耳を傾けるため、しっかりとした土台がないゆえに、風向きに任せてあらゆる方向にくるくると回り続けるのが未熟なクリスチャンだと言うのです。そして、このような間違った教えは悪魔によってもたらされていると、その危険をパウロはこの箇所で特に訴えていました。偽教師たちが私たちをだますことによって、私たちが神の栄光をしっかりと反映させて、神に喜ばれる者としてこの地上での歩みを行なうのではなく、むしろ、不安定でフラフラしているゆえに、「あれっ、本当に神さまを信じている人なのですか？」と周りから言われる、そのような人物であることを彼らは望むのです。そのようなところから離れなければいけないとパウロは私たちに教えたのです。

今日、私たちは15節を見ます。15節でパウロは2番目の結果を私たちに教えるのですが、これは、私たちが「霊的に未熟な者として留まり続けないための方法」を私たちに教えてくれます。神が教会に与えられている設計図通りに私たちが教会を建てる時に、必ず見ることができる結果の2番目を見て行きます。

IV. B. すべての信徒はキリストに向かって成長する 15節

私たちはここで、単に、成長を遂げるだけではなく、キリストに向かって成長して行く者だということを学んで行きます。このことは、ここにいるすべての人たちに重要な事柄です。なぜなら、ここに記されていることは、私たちがどうすれば霊的に成長することができるかということだからです。私が心

から願うことは、今日皆さんといっしょに学んで行く事柄が「私は成長したいです。」と心から願っている人たちへの励ましとなることです。心から願うことは「私は成長したいけれど、今とても困っています。どのようにして成長して行けばいいのか分からない。」と思っておられる皆さんの大きな助けになることです。そして同時に、何よりも願うことは、もし、私は成長したくないとか、私は成長しなくてもいいと思っておられる人がここにいるなら、その人たちに対して大きな警告になることです。

11-16節を読みましょう。

「:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。:14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。:16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

パウロはここで私たちに、私たちはどのように成長して行くべきか、どのようにすれば私たちは成長することができるのか、そのことを教えています。すべての人たち、すべてのクリスチャンは霊的に未熟な状態で生じます。救われたとき私たちは霊的に未熟な者です。そして、そこから信仰の成熟へと向かって進んで行く過程が始まって行きます。けれども、私たちが教会の中を見たときに、皆さん思いませんか？みなが同じスピードで成長しているのかというとそうではありません。ある人たちは非常に短期間で素晴らしい成熟を身に付けて行きます。同時に、別の人たちは長い時間をかけても、いつまで経っても未熟な状態のままで居続けます。この教会を見てもそうかも知れないし、世界中の教会を見てもそのことを見て取ることができるでしょう。霊的な成熟度は、必ずしも、皆に同じ一定のスピードで起こる訳ではないのです。それゆえに、私たちはひょっとすると、霊的な成長を遂げるためには何か特別な力が必要であるとか、何か特別な秘密があるのではないかと、思っておそれを捜し求めてしまいます。

特別な方程式があってそれを実践すれば私は霊的に成長することができるかも知れない、いや、ひょっとすると何か特別な体験が必要で、その体験があるなら私は成長できるかも知れないと。ここにおられる皆さんの中にも、そのようなものを捜している方がおられるかも知れません。何か特別な方程式を見つけることが出来るのではないかと、何か特別な体験が起こるのではないかと、いや、もしかすると神から雷（いかずち）が降りて来て、私がそれに打たれたときに私は素晴らしい信仰者へと変わることができるのではないかと。皆さんは同じように、このような秘訣があるのではないかと思うけれど、でも、いつまで経っても見つけることが出来ず、いつまで経っても霊的に未熟な状態で留まり続けるゆえに、もう成長するという概念自体に疲れ果ててしまって、「まあいいか、これで十分ではないの…」と言って諦めてしまっている人がいるかも知れません。今の自分の霊的状态で特に困ることはないから…と。

皆さん、今日私たちがここで見て行こうとすることは、皆さんにとって素晴らしい知らせです。なぜなら、パウロはどうすれば私たちが信仰的に成長することができるのかを教えてくれているからです。パウロはどうして私たちが霊的な未熟さの中に留まってはいけないのかということを14節で教えた後に、私たちはどのように成長することができるのかを教えてください。今日は何度もこのことを繰り返します。「神の計画に沿って教会が建てられるなら、そこには必ず個人的な霊的成長が生まれて来る」のです。聖書はそうように約束し、そのように教えています。では、どのようにして私たちは成長するのでしょうか？その答えとして一番目にパウロはこうに言います。

1. 成長は信徒が望むときにのみ起こる

私たちクリスチャンは成長したいと思わなければ成長することはないのです。このように言うと皆さんは「当然のことをポイントとして大々的に上げるのか？」と言われるかも知れません。もし、そう思われるなら、これから話すことをしっかり聞いてください。この14-15節を見るとときに私たちがはっきり理解できることは、14節と15節はまるで双子のような箇所だということです。パウロは二つの節を使って基本的に一つのことを訴えているのです。その一つをパウロは14節では否定的に、もう一つを15節で肯定的に教えようとしています。この箇所、14、15節を、付随する修飾しているいろいろなことばを全部取り除いて、支えている骨格だけにするとこのように訳すことができます。「その結果（または、それゆえに）、私たちはもう子どもでいることを止めて成長しようではありませんか。」と。14節では否定的に「子どもでいることを止めましょう。」と言い、その代わりに15節では「私たちは成長しようではありませんか！」と言うのです。パウロが言わんとしていることは真にこのことです。「子どもでいることを止めて成長して行きましょう！」。パウロは私たちみなに向かって

成長するように呼びかけているのです。私たちが成熟した者、信仰的に成長したキリストに似た者となっていくことができるように、意図的にしっかりと目的意識を持って成熟のための努力をして行きましようと呼んでいるのです。

ここで私が興味深いと思うことは、パウロが自分自身をこの動詞の中に含めていることです。この箇所は「私たちは成長して行こうではありませんか。」と訳すことができます。パウロは自分自身を含めているのです。「私たちは子どもで居続けることをもう止めて成長して行きましよう！」と、不思議なことをと思いませんか？パウロは使徒の中の使徒と言われるような人物ではないですか？エペソの教会に向かってこの手紙を書くときにパウロは「あなたがたはいつまでも子どもではいけませんよ。早く大人になりなさい。」と言っても良かったのです。ところが、パウロは自分自身をその中に含めて「私も含めて皆さん、いつまでも未熟なままではいなく成長を遂げて行きましよう。キリストに似た者になって行きましよう。」と言うのです。

私たちはパウロが「成長すること」を心から望んでいたことをよく知っています。パウロはそのことをいろいろな箇所で実際に告白しています。たとえば、ピリピ3：10－14ではこのように記しています。「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、：11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。：12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。：13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、：14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」、パウロの目標は死者からの復活に達することです。別の言い方をするなら、キリストの似姿になるということです。キリストと同じ姿になりたい、キリストとその復活の力を知って、キリストの苦しみにあずかることも知って、キリストと同じ状態になりたい、完全な者になって行きたい、そのために私は今も熱心に追究していると言うのです。パウロはそう願って人生を歩んで行ったのです。Iコリント9：26－27にも同じようなことが記されています。「ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。：27 私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。」、パウロはいつまでも自分が目標としている所に向かって進んで行くことができるように、「自分のからだを打ちたたいて従わせ」ていると言うのです。彼は走るのを止めることを良しとはしなかったのです。彼は自分の生涯を通してキリストに似た者になるというその目的を熱心に追求めたのです。

時に、自分に対してムチを打ちながら…。それゆえに、彼は人生の終わりに自信をもってこのように言えたのです。IIテモテ4：7「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」と、自分の死が近いことを理解したパウロは、自分の人生を振り返って、その歩みがどのようなものであったのかをまとめた時にこのように言ったのです。しかも、これはパウロが自分自身に対してだけ願っていたことではありませんでした。パウロは他の人たちに対してもこうであって欲しいと心から願ったのです。だから、コロサイ1：28にはこのように書かれています。「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」、霊的に完成した者として、成熟した人物としてキリストの前に立つことができるように、私は熱心にこの働きをするのだと言っています。パウロの人生を一言でまとめるとするなら、パウロはキリストに似た者になりたいと願って生きていたということです。

パウロが他に人に願った人生もまた、同じように要約することができます。「すべての人がキリストに似た者となることができるように」です。パウロはこのような生き方をしていたゆえに「私を見ないなさい。」とよく言っています。私は完全ではないけれども、私がキリストに似た者へと行って行くことを心から願って歩んでいるその生き方を模範として、あなたがたも私について来なさいと。パウロはそのことをピリピ3：17、Iコリント4：16、11：1で教えています。（ピリピ3：17「兄弟たち。私を見なう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。」、Iコリント4：16「ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私になう者となってください。」、11：1「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」）。パウロはここに自分自身を含めて「さあ、みんなでいっしょに成長して行こうではありませんか!」と言っています。パウロは私たちがパウロと同じようにこの成長を求めて生きて行くことを心から願っていたのです。確かに、皆さんが思われるように余りにも明らかなポイントです。成長を望まないなら成長はない、当たり前のことです。でも、このことは非常に重要なのです。なぜなら、もし皆さんが本当にキリストのものであるとするなら、皆さんはこのことを望んでいなければおかしいからです。ある牧師はそのメッセージの中でこのように言っていました。「あなたが真のクリスチャンであ

るという最も確かなしるしは、あなたの心の内にあなたの存在のその中心その核心部分に、私は自分自身のすべてにおいてキリストに似た者でありたいという心からの願いがあること。」と。もし、その願いがなければ、皆さんは本物のクリスチャンではないかも知れません。そして、本物のクリスチャンであるなら、皆さんがこの願いを心の底から強く持っているのです。

皆さんが誤解しないようにこのことを言わなければなりません。「キリストに似た者になりたい」というこの願望は、私たちが特定の罪を取り除きたいという願望とは違います。そのような願望は未信者でも持っています。「私はこんな問題を抱えています。こんな悪い習慣を持っています。」と、だれでもそれを取り除きたいと思うではないですか？でも、ある人たちはどこか誤解していて、「私が成長したいと願うのは私の問題を取り除くことです。」と考えます。でも、問題を取り除くことと、クリスチャンとしてキリストに似た者になりたいということは、必ずしも同じものではありません。問題を取り除きたいのは自分に不都合があるからではない、自分が恥ずかしいからでもないのです。それがあって困っているからどうぞ取り除いてくださいということでもないのです。私はキリストに似た者になりたいから、私がキリストに似ていない部分を取り除きたい、それがクリスチャンの願望です。クリスチャンが持っている心からの願いは、キリストの姿を反映させることです。キリストを完全に現わすことができる生涯を送りたい、それこそがまさに真のクリスチャンの願いであり、それこそがまさに救いの最終的な到達地点です。

ローマ人への手紙 8：29 に書かれていることは皆さんご存じでしょう。「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」、神は世界の基の置かれる前から救われる人たちを選び出し、その人たちを召されたのです。召された人たちは御子の姿になるのです。神の似姿を持つのです。それゆえに、この願いがクリスチャンにあるのは当然のことです。その願いがないことはおかしいのです。けれども残念なことに、クリスチャンの中には成長していない人たちがたくさんいます。そして、この成長を見ることができない、成長が欠如している時に最も多く起こっていることは「成長したいと願うその願望の欠落」です。ある人たちはこの願望に欠落しています。その理由は本当に救われていないからです。クリスチャンだと言っているながら成長していない一番の理由はその人たちが救われていないことです。なぜなら、救われていなければ新しく生まれていないのですから成長のしようがありません。ある人は「私は信仰を持っています。」と言います。でも、その信仰は自分の欲しいものを得るための手段でしかない場合が多くあります。

人はなぜ信仰を持つのでしょうか？人々に受け入れられたいから、天国に行きたいから、地獄から逃れたいから、安らぎが欲しいから、愛されていることを知りたいから…、全部が悪だと言っているのではありません。誤解しないでください。でも、もしそれだけが私たちが信仰を持ちたい、クリスチャンでありたいと願っていることの理由であるとするなら、私たちは単に自分の欲しいものを手に入れるために信じようとしているだけではありませんか？未信者でも同じことをしませんか？この場合に多く見られることは、それらが与えられないことが起こった時、それらが自分の願うように備えられていないときに、私たちは成長することを止めようと思うのです。信仰自体を捨てようとするのです。なぜでしょう？それはその人のうちに本物の信仰を見ることができないからです。でも中には、実際に救われていながらこの願望に欠落する人たちがいます。その人たちは妥協する人たちです。私たちはみなきつと同じように経験すると思います。私も経験したことがあります。成長したいと願っているけれどもなかなかその抱えている問題に打ち勝って成長して行くができないということ、ありませんか？けれども残念なことは、その中で私たちはその問題に打ち勝つことができないことに妥協するのです。余りにも多くのときに、私は人々が「私は努力したのです」と言っていることばを聞きます。「一生懸命頑張ったのです。でも、変わらないのです。成長しないのです。」と。そのときに私は必ず聞きます。「どのくらい努力しましたか？」と。皆さんから返っている回答のその期間はどれくらいでしょう？一番多いのは、約2週間です。「私は随分長いことやったのです。」とぼやかすのですが、「具体的に何日ぐらいですか？」と聞くと多くの場合約2週間未満です。ある人たちは1週間もないでしょう。「1ヶ月頑張りました。」という人たちを見つけることは難しいです。3ヶ月は殆どいません。私はこれまでに一度も「1年以上努力しました。」と言う人を見たことはありません。

なぜ、努力を止めるのですか？なぜ、成長したいと願うその思いその働きを止めるのですか？もちろん、いろいろな理由を上げるでしょう。私たちは成長したいから成長しようと努力するのです。努力したときに成長がないとするなら、私たちは成長するための努力を止めるべきだと思いますか？それとももっと熱心に成長するための努力をするべきだと思いますか？本当に成長したいと思うなら、もっと熱心に努力するべきだと思いますか？その結果が出ないのですからどうして諦めるのですか？どうして

止めるのですか？私たちは妥協するからです。「私はこんなに一生懸命努力したのに成長することができませんでした。問題に打ち勝つことができませんでした。だから、神さまはきっと私に今の状態のままで満足するように教えているのです。」と。もし、そう言われる方がおられるなら、どうぞ聖書の中にそのように教えている所を探してください。聖書のどこかに、神が霊的に未熟な状態で留まることを良しと教えている所があるかどうか？また、ある人たちは言います。「私は聖人ではありません。単なる一般信徒です。ただのクリスチャンです。牧師になりたいと思わないし宣教師になりたいとも思っていません。日常生活の中で神に感謝して生きることができるならそれでいいのだから、これぐらいの成長で十分じゃないですか？」と。みことばの中にそれを見つけてください。

パウロはこの文脈の中でも言いました。聖徒が整えられて奉仕の働きをし、キリストのからだが完成することを私たちは求められていませんか？いったい、どうして私たちは途中で妥協するのですか？どうしてこれ位で十分だと思うのですか？パウロは私たちに「キリストの似姿になりなさい」と言います。そのために私たちはそのことを心から望んでいなければいけないのです。皆さん、望んでいますか？「何よりも私はキリストに似た者になりたい！」と 皆さんは自分自身を打ちたたいて、キリストに似た者になろうとしていますか？それとも、そんなことには疲れたと言って諦めていませんか？確かに、私たちが成長して行くために私たちが成長を願うことは必然的なことです。なければなりません。けれども、私たちがよく分かっているように願うだけでは成長しません。どのように成長するのか、その二番目は、

2. 成長は聖書の真理を通してのみ起こる

皆さんよくお分かりのように、例えば、私たちが10cm背を伸ばしたいと願っても、次の朝起きて伸びているでしょうか？伸びていません。伸ばせないのです。横には増えるかも知れませんが、縦には伸びない訳です。なぜなら、私たち自身の内側には自分自身を成長させる力がないからです。だから、パウロはその力がだれにあるのかを明確にしてこのように教えました。皆さんよくご存じです。I コリント3：6「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」、すべての成長は神がもたらすものです。神だけが人々を霊的にも肉体的にも成長させることができる方なのです。それゆえに、私たちはその方から成長がやって来ることを覚えておかなければいけません。でも、注意していただきたいのはこのことです。確かに、神は人々を成長させます。そして、神は主権者であり何でもできる方だから、最初に言ったように、もし神が願うなら、神が特別の働きをもって私たちのたましいの奥深い所に触られて、私たちを一瞬に霊的に成熟した者へと変えることができます。神にはそのことは可能です。でも、神はその方法を選択されていません。神はそのようにして人を成長させるとは言わないのです。神がみことばを通して教えることは、神はある方法をもってある事柄をお用いになって私たちが成長させるということです。ですから、どうぞ、神からの雷（いかずち）をお待ちの皆さん、待たないでください。来ないのです。神はそれを皆さんの霊的成長のために用いようとしていないからです。不可能か可能か？と言うなら可能です。神は望めば何でもできるからです。でも、神はある特例の事柄を用いて皆さんを成長させようとするのです。それがパウロが言わんとする2番目のことです。

成長は信徒が望むときにのみ起こるのですが、同時に、成長は聖書の真理を通してのみ起こるのです。この11節からのセクションは非常に翻訳し難い箇所だろうと思います。新改訳聖書の訳者たちは非常にすばらしい訳をしたと思いますが、先程皆さんに説明したように、14－15節で言わんとしている一番のポイントは、「子どもであることを止めて成長しなさい」でした。でも、15節を見るとそれが主なる動詞に見えないのです。「真理を語り、成長し、キリストに達すること」とたくさんあるようです。でも、パウロが言っていることは「成長しなさい」でした。ここに記されている残りの部分は「成長しなさい」を説明しているのです。パウロが最初に説明することは、どのようにして成長がもたらされるのかということです。15節を直訳します。日本語としてはおかしいですが、このようになるということを経験して聞いてください。「むしろ、愛のうちに真理することによって、かしらであるキリスト、この方に向かってあらゆる点において成長しようではありませんか。」、パウロはこのような表現をここで使っていたのです。私は今「真理する」という表現を使いました。日本語ではこのような表現はありません。「真理」は動詞ではないからです。けれども、ギリシャ語では実はここに動詞が使われているのです。それゆえに「真理する」と訳しました。このことばを翻訳するのは非常に難しかったらと思います。「真理する」という概念が日本語にはないので、翻訳者はここで「真理を語る」と「語る」という動詞を入れたのです。そのことばは間違っている訳ではありません。確かに、そこには真理を語るという意味合いが含まれています。けれども同時に、ここには「真理を行なう、または、真理を守る、保つ」という意味合いも含まれていることを私たち忘れてはいけません。どちらを取っても言わんとしていることはそれほど大きく変わりませんが、皆さんにしっかりと理解していただきたいこと、ここでパウロが言わんとしていることは「私たちがお互いに正直に愛をもって話し合いをしましょう。」

ということではないということです。パウロがこれまでの文脈の中ではっきり語って来ていることを考えるなら、そのことは明らかです。

パウロはもうすでに、私たちがどのように霊的な完成へと向かって行くのかを 11－13 節で教えました。キリストは教会に賜物をもった者たちをお与えになって、彼らが神の真理を伝えた、そのときに聖徒たちが整えられて奉仕の働きをし教会が完成して行くと、パウロはこのように続けました。また同時に、14 節でパウロは、霊的な未熟さは私たちが真理を知らないことに関連していると言っています。波にのまれることも真理をきちんと理解していないから、教えの風に吹き回されるのも真理に正しく立っていないからです。それなら、パウロがここで「むしろ、愛をもって真理を語り、または、真理を保ち」と言っているのは、神が教えようとしていることを私たちがしっかりと保って、それを実践しているかどうかということです。事実、ある注解者たちはこの「真理を語る」ということばの「だれが語っているのか」という理解において、実は、これは聖徒一人ひとり、クリスチャン一人ひとりが語っているのではなくて、11 節に出て来る人たちが語っていることだというように理解します。なぜなら、今言ったように、11 節に出て来る「使徒、預言者、伝道者、牧師または教師たち」が真理を語ることによって教会が成長しているからです。その流れを受けたときに、確かに、そのように捉えることも一理あります。

つまり、「真理を語り」とはだれが語っているのかというと、教会に賜物として与えられている教会のリーダーたちが正しく神のみことばを解き明かすことによってと、理解することができるのです。ただ、私は個人的にはどちらかと言うと、この「語る」ということばよりも「守る、保つ」という意味合いで理解した方がより分かり易いと思います。その方がより正確だろうと思います。特に、14 節との文脈、兼ね合いを考えたときに、そのことがはっきりと分かります。14 節では「未熟であってはいけない」と警告しました。未熟な状態とは、波にもまれる小舟のよう、不安定であってはいけないのです。教えの風に吹き回される風見鶏のような存在であってはいけないのです。ですから、波にもまれないように真理をしっかりと保っていなければいけないし、教えの風によってあっちに流されこっちに流されるというようなことがないように、真理にしっかりと留まっていなければいけないからです。文脈を考えたときに、このように理解することが最善であると思います。そのように考えるなら、私たちはここでパウロが言わんとしていることをもう一度整理して理解しなければいけません。

パウロは、私たちがどのようにして成長するのかという質問に対して、真理を保つこと、真理を守り行なっていくことと答えるのです。皆さん、真理は皆さんを成長させません。神が皆さんを成長させます。でも、皆さんが真理をしっかりと保つことがなければ神は皆さんを成長させないのです。皆さんは成長しないのです。そのほうが正確です。皆さん、胎児がお腹の中で成長することを想像してください。成長を与えるのは神です。私たちがどれ程望んでも、お腹の中の子どもの成長を自分たちでコントロールすることはできません。神がそれをするのです。でも、もし母親が子どもの成長に必要な食事を摂ること、休息を取ることをしないなら胎児は余り成長しません。同じように、神は私たちが霊的に成長するに当たって真理を保つことを定められたのです。私たちがそれをしなければ成長できないのです。

では、この「真理」とはいったい何でしょう？イエスは簡潔に要点をしっかりと教えてくださっています。ヨハネの福音書 17 章 17 節、弟子たちに対する祈りの中でイエスは父なる神にこのように祈っています。「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」と。真理によって弟子たちがキリストに似た者となっていくことができるように聖い者にしてください、その真理とは「あなたのみことば」ですと言われたのです。聖書が真理なのです。皆さんが霊的成長を遂げていくために必要なことは、神の主権的な働きと神のおことばです。皆さんがみことばを保ちみことばを守り、みことばをしっかりと握りしめて生きて行くこと、それが皆さんの成長に繋がるのです。皆さんがあらゆる決断、あらゆる行動、あらゆることばを、皆さんに関わるありとあらゆる事柄をみことばに基づいて行なっていくときに、皆さんは成長して行くのです。それが実践されるときだけ、私たちは風に吹き回される風見鶏のようではなく、しっかりと立って動くことがない成熟した人物へと変わって行くことができるのです。

皆さんはみことばがどれ程皆さんの成長に重要なことか、ここで敢えて詳しく説明を受ける必要はないだろうと私は思っています。なぜなら、私たちは皆さんにそのことを何度も繰り返してこれまでこの教会で教え続けて来たからです。二箇所だけ読ませてください。I ペテロ 2：1－2「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」、「純粋な、みことばの乳」によって成長するのです。エペソの長老たちを呼び集めたときにパウロは迫り来る危険を警告した後、彼らにこのように告げました。使徒の働き 20：32「いま私は、あなたがたを

神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができるのです。」と、何が約束されていますか？みことばです。みことばを通して、聖書の真理を通して、神は私たちを成長させるのです。それゆえに、みことばに根ざすこと以上に、霊的成長において重要な事柄はないのです。どのようにして「みことばに根ざす」ことができるのでしょうか？文脈を覚えておられますか？何度も繰り返しますが、神は設計図をお与えになりました。その設計図にはどんなことが書かれていたのか、神は賜物をもった者を教会にお与えになったのです。その者たちの責任はみことばを解き明かすことでした。彼らがみことばを解き明かすと聖徒たちは整えられて奉仕の働きをし、キリストのからだが成熟して行くのです。完成へと向かって行くのです。つまり、パウロはここで私たちに「あなたたちは教会に来て、正しくみことばが解き明かされることを耳にし、それによって成長して行かなければいけない。」と言っているのです。

確かに、個人的にみことばを学ぶことは重要です。それを否定するものではありません。誤解しないでください。それが必要ですが、パウロはここでは一切そのことに触れていないのです。パウロが言っていることは、私たちクリスチャン一人ひとりが霊的に成長する上で最も重要なこと、それは一人ひとりが教会に来て、みことばが正しく解き明かされることを聞いて、それにしっかりと根ざし、それを握りしめて、あらゆる事柄をその真理に基づいて考え生きて行くことです。だから、これも何度も繰り返して言うのですが、正しくみことばの解き明かしをしていない教会にいるなら私たちは成長しないのです。多くの教会は様々なプログラムへと走りまわりました。教会成長をもたらすと言われる様々な仕組みに取りかかりました。けれども、教会の真の成長は「みことばの正しい解き明かし」にしかないのです。

霊的に成熟するためには、私たちは神のみことばが神が与えてくださった賜物をもった者たちによって正しく解き明かされる教会にいななければいけないのです。私は何度もここで、神のみことばが教会の中心でなければいけないと言って来ましたが、もし、それを教会から取り除こうとする者がいるなら、その人物は「教会を建てよう、教会を良くしよう、教会を成長させよう！」とするのではなく、むしろ、教会を破壊しているのです。行なっている様々なプログラムがどれ程皆からの好感を得るものであったとしても、それとみことばの解き明かしを取り代えてはいけません。なぜなら、神はこのみことばの上に、みことばの解き明かしをもって教会の成長を与えようとしておられるからです。

アルモラという、アメリカ南バプテスト教団の大きな神学校の学長をされている方はこのように語っています。「本物の説教が行なわれている所、本物のみことばの解き明かしが為されている所、そこにこそ教会がある。そして、それが欠落している所、そこには教会はない。たとえ、どれだけ教会が大きなものであったとしても、たとえ、その教会がどれだけ莫大な財産をもっていたとしても、たとえ、どれだけ驚くほどのすばらしいと言われる働きが成されていたとしても、それは教会ではない。」と。同意することしかできません。みことばの解き明かしが為されていない所に教会はないのです。

明らかに、みことばを聞いているだけでは成長しません、皆さんよくご存じのことです。だから、パウロは「みことばを聞きなさい」と言っています。「真理を聞きなさい」と言っていないのです。「真理しなさい。」と言っているのです。単に、みことばを理解することでも、みことばを覚えることでも、また、みことばを信じることでもないのです。私たちがみことばの真理にしっかりと根ざして、そうすることによって、いかなる大きな波が私たちを襲ったとしても、どれ程の強風が吹いたとしても、私たちが吹き流され押し流されてしまうことがなく、みことばの真理に沿って物事を考え、物事を行ない、物事を語り、物事を判断して行くことができるようになるのです。真理しなさい！ 真理しなさい！それが私たちが霊的に成長する方法なのです。

皆さんにとって霊的な成長をもたらす「みことばを聞くこと」はどれ程重要ですか？いったい、どれ程の優先順位を皆さんは「みことばの解き明かし」に置きますか？皆さんは教会に来るときに何を一番に楽しみにされますか？交わりですか？賛美ですか？教会に来ることですか？それとも皆さんはみことばの解き明かしを最も待ち望んでおられますか？それを通して成長して行くことが出来るようにと心から願っていますか？皆さんはノートを取られますが、ノートを見直しますか？それともそのノートはどんどん溜まって行くばかりで一度も目を向けることがなかったりしませんか？皆さんは語られたみことばをどのように自分の生活の中に取り入れ、それを実践しようと思いついていますか？それとも、皆さんは何十年も教会に来ていても、単に、みことばが語られるのを何となく耳にしているだけでしょうか？みことばの真理を自分のものとしていますか？

私たちは霊的な未熟児であり続けてはいけません。もし未熟であり続けるなら、私たちは多くの危険の中に置かれてしまいます。余りにも多くのクリスチャンたちが成長することを諦めてしまいます。彼らの問題は、みことばが解き明かされない教会にいるか、もしくは、みことばが解き明かされる教会に

いながら、その教えを拒んでいるかのどちらかです。その教えを自分のものとして、それを通して自分の生涯を生きて行こうとしていないからです。皆さん、人が飢えるとどうなるか知っておられますか？私たちは食事を摂らないと最初に自分たちの脂肪を燃やします。脂肪を燃やしてエネルギーを作るのです。その脂肪がどれ位の間持つのかはその人にどれ位の脂肪が蓄えられているかによって違います。多く蓄えられている人は長く燃焼する時間があるし、少ない人は少ししかありません。でも、その脂肪はいつか必ず燃え尽きます。その後どうなるか？私たちの体は自分たちの筋肉や様々な肉体の組織を燃焼することによって、人間が生きて行く上で必要なシステムを機能させようとします。中枢神経や心臓の筋肉などです。そのようにして行くと、段々、自分の体の中で自分自身を食べて行くことによって自分の機能を保って行こうとする訳です。その中の一つに胃もあります。胃も段々萎縮して行きます。皆さん、どうして空腹になるかご存じですか？胃の大きさと胃の中がどれ程空っぽになっているか、その量によって空腹感を覚えるのです。ところが、胃が萎縮すると胃の大きさが小さくなるので私たちは空腹感を覚えなくなるのです。お腹が空いていて食べなければいけないのに…。そして、私たちは段々と栄養がなくなっていくゆえに、弱々しくなって力がなくなっていく行きます。実際に、のどが渴いたという意識さえも起こらないほど衰弱して行きます。あらゆる動きが苦しく痛々しいものになります。なぜなら、様々な萎縮によって筋肉が痛めつけられるだけでなく、余りにも脱水症状が激しくなるゆえに、ちょっと腕を動かすだけで肌が割れて行くからです。それ位脱水するのです。想像を絶するような衰弱と力のなさのゆえにどんどん衰えて行きます。そして、それを機にいろいろな病原菌が私たちを襲うのです。その一つは食道のところにできる菌です。この菌のために何かを飲み込むことすら激痛で耐えられなくなります。そして、私たちは「飢え死」という言い方をしますが、飢え死にはしないのです。実際は、その前に様々な病原菌によって病気になってその病気が原因で死んで行くのです。なぜなら、私たちは弱っているから病気にとって絶好の機会なのです。

同じように、私たちが霊的に飢えて行くなれば、私たちはこの様な悲惨な状況を経験することになります。私たちの霊的生涯は「みことばを食べること」です。いのちを与え成長をもたらす真理を得ることなく維持されて行くことはしないのです。私たちは「真理」という名のすばらしい食事を得て行くことがなければ、成長して行くことはできないのです。それゆえに、もし私たちが自らを飢えさせているなら、それは皆さんがみことばの語られない教会に行っているか、または、皆さんが自らの手でその語られている真理を拒んでいるかのどちらかでしかないのです。皆さんは霊的な力を失って行きます。神に喜ばれたいなどとは思わなくなるのです。そのような生き方をして行きたいなどとは望まないのです。また、皆さんは本当に一番必要であるはずのみことばに対する飢え渴きを失います。そして、力なく、弱々しく、今にも死に絶えてしまうような状態で、「いや、私は単なるダメなクリスチャンです。」と言いながらその信仰生活を全うして行くのです。

皆さん、成長をもたらす純粋な乳であるみことばを慕い求めてください！！